

通信

～潟の歴史を未来につなぐ～

2018/05/31



潟さべり

創刊号

八郎潟・八郎湖学研究会



ごあいさつ

八郎潟・八郎湖学研究会長 谷口吉光

このたび八郎潟と八郎湖を考える新しい研究会を立ち上げました。

「八郎潟・八郎湖学」（はちろうがた・はちろうこがく）という言葉には、干拓前の「八郎潟」と干拓後の「八郎湖」を連続したものと考えようという意味を込めています。

干拓前、八郎潟と住民の間には密接な心のつながりと豊かな地域文化がありました。漁業を中心とした経済、潟の魚を食べる魚食文化、ヨシ原が広がる景観、八郎太郎伝説や子どもの遊びなどです。石田玲水の詩「わがみずうみ」に歌われているように、八郎潟は人々にとってふるさとそのものだったと言っていいでしょう。

しかし、干拓によって、多くの人たちは八郎潟とともに生きていくことができなくなりました。残された「八郎湖」は水質悪化とアオコ問題を解決できず、「水が汚い」という負のイメージが定着したまま、今日に至っています。漁師は減り、潟魚（かたぎかな）を食べる習慣もなくなり、子供や若者の大部分は八郎湖に行くことも見ることもなくなりまし

た。そんな八郎湖の姿を見て「八郎湖は死んだ」と私に言った人もいました。

「一日も早く八郎湖の水質を改善すべきだ」と多くの人が訴え、秋田県による水質改善対策も30年以上も続けられていますが、残念ながら、今日まで水質が良くなる見通しは立っていません。それは行政が怠慢だからではなく、それだけ八郎湖の水質改善が難しい課題だからだと思います。

とはいえ、水がきれいになる日をただ漫然と待っていては、潟の歴史や文化は忘れられ、住民の「心の中の八郎潟・八郎湖」すら忘れられてしまうのではないかと。そんな危機感から、秋田県立大学の教員が中心となって、住民の方々とともに、八郎潟・八郎湖の価値を学問的に再評価するための研究会を立ち上げました。

この通信で紹介したような活動を3年3期、合計9年続ける予定です。楽しく元気のある活動を続けていきますので、多くの方のご参加とご支援をお待ちしています。

「八郎潟・八郎湖学研究会」とは？

平成30年3月6日に設立された会です。

◇会の目的は？

「本会の目的は、干拓前の『八郎潟』と干拓後の『八郎湖』を連続したものととらえて『八郎潟・八郎湖』と呼び、研究者と住民が協働して八郎潟・八郎湖の価値を再評価し、八郎潟・八郎湖の歴史を未来に活かす新しい学問分野を創造することである。」

(会則第3条より)

◇どんなことをする会なの？

- 1 八郎潟・八郎湖に関する調査研究
- 2 「現地セミナー」の開催
- 3 潟さべり※、研究会、現場調査などの活動の実施（※「潟さべり」とは研究者・住民が八郎湖に関するさまざまな話題を提供し、みんなで語り合う会のこと）
- 4 八郎潟・八郎湖学を広めるための出前講座の開催
- 5 八郎潟・八郎湖に関する書籍、小冊子や映像資料などの製作
- 6 秋田県立大学に「八郎潟・八郎湖アーカイブ」を設置
- 7 その他本会の目的に必要と認められる事業

◇会員になるにはどうするの？

会の目的に賛同して入会を希望し、役員会が承認した人が会員になります。会員には、

- 1 正会員（総会の議決権を持つ個人の会員）
- 2 団体会員（代表者1名のみが議決権を持つ団体の会員）
- 3 賛助会員（総会の議決権を持たない個人または団体の会員）

の3つの種別があります。

◇会の役員はどんな人がいるの？

- 会 長 谷口吉光（秋田県立大学教授）
- 副会長 天野荘平（潟船保存会事務局）
- 幹 事 杉山秀樹（秋田県立大学客員教授）
- 〃 高橋秀晴（秋田県立大学教授）
- 〃 植村円香（秋田大学准教授）
- 監 事 永井甚誠

60名のご参加をいただき

「設立記念の集い」を開催

会の設立から4日後の3月10日午後1時30分より、八郎潟町の農村環境改善センターを会場に、「設立記念の集い」を開催しました。当日は、八郎潟町長の畠山菊夫様はじめ、約60名の皆様にお集まりをいただきました。当日のプログラムは次の通りです。

- 1 開会のあいさつ（天野荘平副会長）
- 2 朗読「わがみずうみ」
- 3 来賓挨拶（八郎潟町長 畠山菊夫様）
- 4 記念講演「八郎潟・八郎湖学とは？」
（谷口吉光会長）
- 5 朗読「わがみずうみ（作：菅原雅代）」
- 6 呼びかけ人あいさつ
（谷口・天野・杉山・高橋・鎌田・八柳）
- 7 質疑応答
- 8 「みんなで語ろう！八郎潟・八郎湖」
※参加者が6グループに分かれて八郎潟や八郎湖について自由に語り合った



記念講演では約40分にわたって、谷口会長から「なぜこの会を作ったか？」、「八郎潟・八郎湖学とは？」や「これからの研究会の活動」について詳しい説明がありました。

また記念講演の前後には「わがみずうみ」と題された2つの詩の朗読が行われました。石田冷水作の詩は元わらび座団員の近藤真行氏（三種町在住）が自らのメッセージとともにに行い（録音）、往時の八郎潟をしのびました。

さらに「呼びかけ人あいさつ」では、会の設立に向けて、昨年8月から7回に及ぶ準備

委員会を行ってきた6名が、それぞれの立場から挨拶しました。環境社会学、民俗学、生物学（魚類）、文学など、多方面から八郎潟・八郎湖の価値を再評価するための自らの活動予定や研究会設立への思いを話しました。



「呼びかけ人あいさつ」のあと休憩をはさんで、「質疑応答」を行いました。

質疑応答では次のような質問や感想が出されました。

- * 八郎湖で漁業を行う人は少なくなってきた。産業として継続していくためにはどうやって需要を高めていくかが大事ではないか。
 - * ジオパークの視点も取り入れ、八郎潟ができた起源なども含めた歴史を資料として整備したらよいのではないか。
 - * 水質浄化のために八郎湖に海水を導入するメリットとデメリットとどう考えるか。
 - * アオコの大発生がおきてもおかしくない現状である。水質悪化による農産物等への風評被害が心配である。
- などの発言があり、それぞれについて呼びかけ人が回答や意見を述べました。

会の後半は「みんなで語ろう！八郎潟・八郎湖」と銘打ったフリートークを行いました。

参加者は6グループに分かれ、「八郎潟・八郎湖」について思っていることや感じていること、今後の八郎湖について考えていることなどを自由に話し合いました。

各グループの話題は干拓事業前の八郎潟の思い出や深刻な水質問題など多岐にわたりました。話題は多様でも、参加者の皆さんが八郎潟や八郎湖のことを真剣に考えていること

がひしひしと伝わりました。たくさんの発言の中からは、今後の本研究会の目指すべき方向性について多くの示唆もいただいたと思います。また、志を同じくする方々が各地にいらっしゃることを心強く感じることもできた、貴重な機会となりました。



参加者の皆さんからアンケートにご協力いただきました。回収率は約50%でした。アンケート結果の一部をご紹介します。

○八郎潟・八郎湖学の設立趣旨について

大変賛同できる	50%
賛同できる	46%
あまり賛同できない	0%
全く賛同できない	0%
その他・無回答	4%

○今後の活動について

大いに期待する	63%
期待する	33%
あまり期待しない	0%
全く期待しない	0%
その他・無回答	4%

○自由記述から（抜粋）

- * 八郎湖の食をテーマに学びたい。
- * 周辺地域の農業について取り上げてほしい。漁業だけでなく農業にも目を向けて。
- * 話を聞いてワクワクしてきました。八郎潟アーカイブス、書籍の貸し出し楽しみです。
- * 4,600年前からの地学的な歴史も（研究に）入れてくれればもっと良好と思う。

このほかにもたくさんの貴重なご意見やご提案をいただきました。ご協力に感謝します。

今後の活動について

お知らせ

◇「八郎潟・八郎湖アーカイブ」

オープンセレモニー

○日時：平成 30 年 6 月 13 日（水） 午後 1 時～

○場所：秋田県立大学秋田キャンパス（下新城）
図書館 1 階奥 ラーニングコモンズ（オープンスペース）

○内容：第 1 期分として八郎潟・八郎湖に関する文献を公開。それぞれの本について、簡単な紹介を行う。

貸し出しの手続きなども説明します。珍しい文献もたくさんありますので、お時間がありましたら、ぜひお越しください。どなたでも無料で参加できます。



◇「八郎潟・八郎湖 文学散歩」

○目的：八郎潟・八郎湖を描いた文学作品の舞台を訪れ、その文学的意味を実感する。

また、現在の姿を比較することで、何が継承され何が失われたかのかを検証する。

○案内（解説）：秋田県立大学教授 高橋秀晴

○期日：平成 30 年 7 月 28 日（土）

○集合場所：①秋田県立大学秋田キャンパス
② J R 追分駅 ③ J R 八郎潟駅

○行程（予定）

10：00 秋田県立大学秋田キャンパス

10：10 J R 追分駅前

10：30 J R 八郎潟駅前

10：40 八郎潟町三倉鼻～夜叉袋
正岡子規碑・芭蕉句碑ほか

12：00 昼食（八郎潟町内）

13：00 五城目町 矢田津世子記念室ほか

14：30 大潟村 高井有一

「夜明けの土地」の舞台

15：00 男鹿市船越

松田解子ゆかりの家

幸田露伴「遊行雑記」の舞台

○参加費：会員… 1,000 円 非会員… 1,500 円
昼食代・保険料込み

○定員：30 名（先着順・会員優先）

○申込：事務局（下記参照）にメール・FAX で受け付ける。

身近にありながら今まで知らなかった文学的価値のある場所を、専門家の高橋教授の案内で巡る楽しい企画です。この機会に地域に眠る貴重な文学遺産を知っていただければと思います。

詳しい内容については、今後チラシを作成して改めてお知らせします。

◆〈会員の活動紹介〉「小魚すくい体験」

本研究会の会員である三種町の工藤元太郎さんが毎年実施している活動です。童心に返っての「魚とり」や「エビすくい」で八郎湖周辺での遊びを満喫します。

○時期：6 月末～7 月中旬ごろ

○料金：親子 1,600 円

（用具レンタル料・調理代・保険代込み）

○問い合わせ：NPO 法人秋田花まるっ

グリーン・ツーリズム推進協議会

TEL・FAX：018-829-5895

E-MAIL：info@akita-gt.org

会員を募集しています

会員には通信を定期的にお届けするほか、各種イベントの案内、イベント参加費の軽減などの特典があります。

○正会員…………… 3,000 円

○団体会員…………… 5,000 円

○賛助会員… 10,000 円

（会費はいずれも年会費です）

◎申込：郵便局と秋田銀行に振込先口を用意しています。詳しくは事務局までメール等でお問い合わせください。

～八郎潟・八郎湖に関心のある皆さん
ぜひ仲間に加わってください～

八郎潟・八郎湖学研究会

事務局：秋田県立大学 環境社会学研究室内
〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西241-438

TEL・FAX：018-874-8686（NPO法人はちろうプロジェクト内）

E-MAIL：88gaku@gmail.com

URL：http://hachiro865.net/hachirores.html